

日米交渉資料(五)、東條内閣時代  
(下)

S 1.1.3.1-1

2220

255

REEL No. A-0295

0260

アジア歴史資料センター

目次

四九、十一月十九日 往電第七九八號 乙案提出方指示ノ件…………… 四七

五〇、十一月十九日 往電第七九九號 乙案ニ基ク交渉振ノ件…………… 四八

五一、十一月十九日 往電第八〇〇號 乙案説明ノ件…………… 四九

五二、十一月二十日 往電第八〇六號 野村大使試案拒否ノ件…………… 五〇

五三、十一月二十日 來電第二四七號 野村「ハル」會談ノ件…………… 五一

五四、十一月二十日 往電第八一〇號 交換公文案ノ件…………… 五二

五五、十一月二十三日 來電第二五九號 野村來極「ハル」會談ノ件…………… 五三

五六、十一月二十三日 來電第二六〇號 來極大使會談補遺ノ件…………… 五四

五七、十一月二十三日 來電第二六一號 野村大使會談補遺ノ件…………… 五五

五八、十一月二十二日 往電第八一二號 交渉督促ノ件…………… 五六

五九、十一月二十三日 往電第八一六號 「紹介者」ノ件…………… 五七

六〇、十一月二十四日 往電第八二二號 乙案督促ノ件…………… 五八

六一、十一月二十四日 往電第八二二號 大臣「グル」大使會談ノ件…………… 五九

六二、十一月二十五日 來電第二七八號 米側回答遲延ノ件…………… 六〇

四六一

S 1.1.3.1-1

2221

256

六三、十一月二十五日 來電第一二七九號 米英蘭諸支打合ノ件 ..... 四六二  
 六四、十一月二十六日 來電第一二八〇號 野村來栖打關係具申ノ件 ..... 四六二  
 六五、十一月二十六日 來電第一二八九號 野村來栖「ハル」會談ノ件 ..... 四六二  
 六六、十一月二十六日 往電第八三〇號 交渉督促ノ件 ..... 四六二  
 六七、十一月二十六日 往電第八三三號 石油需要量等ノ件 ..... 四六二  
 六八、十一月二十七日 來電第一九〇號 交渉打切ノ場合ニ關スル件 ..... 四六六  
 六九、十一月二十七日 來電第一九一號 野村來栖「ハル」會見詳報ノ件 ..... 四六七  
 七〇、十一月二十六日 米側對案 ..... 四六九  
 七一、 同英文 ..... 四六九  
 七二、十一月二十六日 米側「オーラル・ステートメント」 ..... 四六九  
 七三、 同英文 ..... 四六九  
 七四、十一月二十七日 來電第一二〇四號 米英蘭側武力措置等ノ件 ..... 四七〇  
 七五、十一月二十七日 來電第一二〇六號 野村來栖「ルーズヴェルト」「ハル」會談ノ件 ..... 四七〇  
 七六、十一月二十八日 來電第一二〇九號 南方武力行動ニ關スル觀測等ノ件 ..... 四七〇  
 七七、十一月二十八日 來電第一二一四號 米側交渉公表ノ件 ..... 四七〇  
 七八、十一月二十八日 往電第八四四號 二十六日米側對案ニ對スル措置振ノ件 ..... 四七〇

四六二

257

七九、十一月三十日 往電第八五七號 交渉振指示ノ件 ..... 四七〇  
 八〇、十一月三十日 東郷大臣發在獨大島大使宛電報 ..... 四七〇  
 八一、 同右別電 ..... 四七〇  
 八二、十一月三十日 來電第一二三三號 東條首相演說ノ件 ..... 四七〇  
 八三、十二月一日 往電第八六六號 東條首相演說ノ件 ..... 四七〇  
 八四、十二月一日 來電第一二三五號 野村來栖「ハル」會談ノ件 ..... 四七二  
 八五、十二月一日 來電第一二三七號 局面手開ニ關シ意見具申ノ件 ..... 四七三  
 八六、十一月一日 來電第一三三〇號 首相演說反響ノ件 ..... 四七四  
 八七、十二月一日 御前會議決定 ..... 四七五  
 八八、十二月一日 御前會議ニ於ル總理大臣説明 ..... 四七五  
 八九、十二月一日 御前會議ニ於ケル外務大臣説明 ..... 四七六  
 九〇、十二月二日 來電第一三三三號 野村來栖「ウエルス」會談ノ件 ..... 四七六  
 九一、十二月二日 米側覺書 ..... 四七六  
 九二、 同英文 ..... 四七六  
 九三、十二月三日 往電第八七五號 覺書ニ對スル回答振ノ件 ..... 四七六  
 九四、十二月三日 往電第八七六號 意見具申ニ對シ指示ノ件 ..... 四七六

四六三

8 1.7.3.1-1

2222

- 九五、十二月三日 往電第八七八號 交渉促進ノ件…………… 美
- 九六、十二月三日 來電第二三九號 米側發表ノ件…………… 美
- 九七、十二月三日 來電第二五六號 米側覺書ニ關シテ請訓ノ件…………… 美
- 九八、十二月四日 往電第八九二號 覺書ニ對スル同答書ノ件…………… 美
- 九九、十二月五日 來電第二六一號 野村來栖「ハル」會談ノ件…………… 美
- 一〇〇、十二月六日 來電第二七五號 親電發出ニ關スル情報ノ件…………… 美
- 一〇一、十二月六日 往電第九〇二號 對米覺書發電ノ件…………… 美
- 一〇二、…………… 對米覺書…………… 美
- 一〇三、…………… 同英文…………… 美
- 一〇四、十二月六日 往電第九〇四號 機密保持ニ關スル件…………… 美
- 一〇五、十二月七日 往電第九〇五號 親電ニ關シテ照會ノ件…………… 美
- 一〇六、十二月七日 往電第九〇七號 覺書手交時間指示ノ件…………… 美
- 一〇七、十二月七日 往電第九〇八號 大使以下慰勞ノ件…………… 美
- 一〇八、…………… 「ルーズヴェルト」大統領親電…………… 美
- 一〇九、…………… 同英文…………… 美
- 一一〇、…………… 親電ニ對スル思召…………… 美

一一一、  
一一二、  
一一三、

- …………… 同英文…………… 美
- …………… 外務省發表日米交渉経緯…………… 美
- …………… 同英文…………… 美

四九、十二月二十日東郷大臣發野村大使宛電報第七九八號

(乙案提出方指示ノ件)

往電第七九七號ニ關シ  
 御來示ノ方式「日本ノ平和的政策ヲ一層明確ニシタル上ニテ」ナル條件ハ三國條約問題ヲ當然豫想シ居ルモノト察セ  
 ラレ決シテ日本カ南部佛印ヨリ撤兵シ米國ハ凍結令前ノ狀態ニ還ルト云フタケノモノニアラス米國側ニ於テハ相當煩  
 雜ナル條件ヲ持出シ來ル餘地アリ他方我國内情勢ハ南部佛印撤兵ヲ條件トシテ單ニ凍結前ノ狀態ニ復歸スト云フカ如  
 キ保障ノミニテハ到底現下ノ切迫セル局面ヲ收拾シ難ク勸クトモ乙案程度ノ解決案ヲ必要トスル次第ナリ情勢右ノ如  
 ク差迫リ居ルヲ以テ貴電私案ノ如キ程度ノ案ヲ以テ情勢緩和ノ手ヲ打テタル上更ニ話合ヲ進ムルカ如キ餘裕ハ絶無ナ  
 リ旁々貴大使カ當方ト事前ノ打合セテ貴電私案ヲ提示セラレタルハ國內ノ機微ナル事情ニ顧ミ遺憾トスル所ニシテ  
 却ツテ交渉ノ遲延乃至不成立ニ導クモノト云フノ外ナシ仍而貴使ハ此際右私案ニ對シ當方ヨリ修正訓令ニ接シテリト  
 テ往電第七九九號、第八〇〇號及第八〇一號御參照ノ上大同ノ會見ニ於テ乙案御提示相成度ク尙右ハ帝國政府ノ最終  
 案ニシテ絕對ニ此ノ上讓歩ノ餘地ナク右ニテ米側ノ應諾ヲ得サル限り交渉決裂スルモ致シ方ナキ次第ニ付右屬ト御含  
 ミノ上萬善ノ御努力ヲ拂ハレ度シ  
 尙貴電第一一三三號及第一二三四號御來示ノ次第ハアルモ本件交渉ハ既報訓令ノ範圍内ニ於テノ受諾可能ナルニ付  
 右特ニ申進ス

S. 1.7.3.1-1

2224

四六七

259

五〇、十二月二十日東郷大臣發野村大使宛電報第七九九號

(乙案ニ基ク交渉振ノ件)

貴電第一〇九六號日米共同宣言案ハ帝國政府ニ於テ受諾ヲ困難トスル點多クアルハ既ニ電報セル通りナル處同電中互  
惠通商條約ニ關スル「ハル」長官ノ提唱ハ同氏多年ノ主張トシテ一應首肯セラルルモ同時ニ國務省支那專門家達ノ意見  
モ多分ニ織込マレ居ルモノト察ス而シテ餘リ細密ニシル案ヲ一々論議スルニ於テハ短時日間(往電第七三六號)ニ妥結  
ニ達スルコト不可能ト斷セサルヲ得ス事茲ニ至リテハ大所高所ヨリスル政治的解決ニヨリ最悪ノ場合ヲ回避スル爲メ  
絕對必要ナル數項目ニ付大至急協定ヲ遂ケ先ツ以テ戰爭勃發ノ危險ヲ防止スルコト唯一絕對ノ解決法ト思考セラル  
就テハ貴大使ハ往電第七八〇號中ヨリ6(通商無差別)及7(三國條約)ヲ削除シ5ノ第二項トシテ往電第八〇一號ヲ追  
加セルモノヲ「ハル」長官ニ手交セラレ右ハ從來兩國間ノ主要懸案クリシ國際通商上ノ無差別待遇問題、三國條約問題  
ヲ「ドロツプ」シ支那駐兵問題ハ米側ノ意向ニモ願ミ之ヲ日支間ノ話合トナシ以テ緊迫セル空氣ノ緩和ヲ圖ラヌトスル  
モノナルコト又5ノ第二項南部佛印ヨリ北部ヘノ移駐ハ我方トシテハ急遽妥結ノ爲メ敢テ提案セントスル極メテ重要  
ナル讓歩ナルコトヲ強調セラレ破局ヲ救フ爲メ急遽(右ハ一週間内ト御承知アリタシ)ニル(天統領)ノ決裁ヲ經テ調印  
ヲ了スル様御申入アリ度シ

尙先方カ強テ主張スルニ於テハ往電第七八〇號6及7(通商無差別及三國條約)ヲ挿入方向同意セラレ差支ナキモ本二問  
題ニ對スル我方ノ態度ハ6(無差別原則)ニ關シテハ貴電第一一二九號ノ次第ハアルモ往電第七八四號ハ變更シ得ス  
「ハル」モ支那ニ於ケル差當リノ諸問題ハ餘リ眼中ニ置キ居ラサル如キヲ以テ on the understanding 以下ヲ削除ス  
ルコトヲ固執セサルモノト思考ス又7(三國條約)ニ關シテハ別電第八〇〇號末項ノ通りナリ

五一、十一月二十日東郷大臣發野村大使宛電報第八〇〇號

(乙案說明ノ件)

往電第七九九號ニ關シ  
往電第七八〇號ノ一、ニ關シ南東亞細亞及南太平洋トセルハ蘭領印度、泰ヲ含ムモ支那ハ含マズ  
三ノ第二項ニ關シ所要量ハ今次取極調印前ニ兩國政府協議決定方希望ス  
四、ハ米國ノ援將行爲停止ヲモ意味スルモノト御含ミ置アリ度シ  
五、ニ關シ第二項(往電第八〇一號)ハ協定急遽妥結ノ爲メ敢テ提議セントスル極メテ重要ナル讓歩ナリ  
六、ニ關シ我方ニ於テ獨リ支那ノミニ通商無差別ノ原則カ行ハルコトヲ容認シ得サルハ往電第七八四號ノ通りナリ  
七、ノ第二項末段米國ノ歐洲戰參入ノ場合ノ我方態度ヲ「自主的ニ行フコト」ヲ説明トシテ右場合攻撃アリクイヤ否ヤ  
ニ關シテハ帝國カ三國條約ニ於ケル他締約國ノ解釋ニ拘束セラルルコトナク解釋シ得ルモノナルコト及三國條約中  
ニハ何等ノ秘密協定モ存在シ居ラサルコトヲ明カニセラレ差支ナシ(但シ本項説明ハ協定成立ノ見込付ク迄ハ之ヲ  
差控ヘラレ度シ)

8.1.3.1-1 2225

五二、十一月二十日東郷大臣發野村大使宛電報第八〇六號

(野村大使試案拒否ノ件)

貴電第一二三六號ハ往電第七九八號ト行違ヒタルモノト認メラルル處當方事情ハ右往電記載ノ通りニテ貴方試案ニテハ遺憾ヲ時局收拾ヲ計ルニ足ラス依テ往電第七九八號末段ノ趣旨ニヨリ至急話ヲ進メラルル他ニハ局面打開ノ途ナキニ付右ニ御承知相成度總理ニ於テモ右ニ全然同意見ナルニ付爲念

五三、十一月二十一日野村大使發東郷大臣宛電報第一一四七號

(野村「ハル」會談ノ件)

二十日「ハル」長官トノ會談要領左ノ通り  
同日ハ米國最大休日ノ一ナル「サンクス・ギビング・デー」ニモ拘ヲス「ハル」ハ會談ヲ快諾セルニ依リ本使來栖大使同道往訪セリ先ツ我方ヨリ貴電第七九八號御訓令ニ基キ各項目ニ付説明ヲ加ヘタル處「ハル」ハ他ノ部分ニ付テハ「一、二、三」問ヲ試ミタルノミニテ左シタル意見ヲ述ヘサリシカ米國ハ日支全面和平ノ努力ヲ妨クルカ如キ措置及行爲ヲ爲ササル旨ヲ約ストノ一項ニ對シテハ非常ナル難色ヲ示シ三國同盟條約ニ對スル從來ノ主張ヲ繰述シ米國々民ノ頭ニ同條約ノ關係ヨリ來ル拔クヘカラサル疑念ノ存スル限リ米國トシテ蔣介石援助ヲ打切ルコトハ極メテ困難ナリ御承知ノ通り現在米國ノ取り居ル建前ハ獨逸ノ止マル所ヲ知ラサル武力擴張政策ニ對抗シテ一面英國ヲ援ケ一面蔣介石ヲ助クルコト

トニ在リ從ツテ日本ノ政策カ確然ト平和政策ニ向ヒ居ルコトカ明確ニ了解セラルルニ至ラサル限リ援將政策ヲ變更スルコト困難ナルコト宛モ英國援助ノ政策ヲ打切ルコトノ困難ナルト全然同一ナリ又一面ヨリ云ヘハ今日ノ事態ニ立到ル迄ニハ在支(滿)米國權益カ日本ノ爲ニ甚クシク迷惑ヲ蒙リ來レル事情モ存スル次第ナリ  
來栖ヨリ過日大統領ニ面接ノ際日支間ノ和平ノ問題ニ關シ大統領ハ「Innocent」トナルヘントノ御話アリタルカ一方和平實現ノ爲メ紹介ノ勞ヲ取ラレテ他方ニ和平實現ヲ妨害スルカ如キ援將行爲ヲ繼續セラルコトハ兩立シ難キ儀ニシテ從ツテ大統領カ「Innocent」トラント云ハルル以上援將打切リラ我方ヨリ申出ツルコトハ當然ノコトト存スト述ヘタリ  
「ハル」ハ之ニ對シ大統領ト雖モ日本ノ根本政策カ平和的ナルコト明カトナルヘキコトヲ前提トシテ右様ノコトヲ申シタル次第ニシテ從來日本ノ有力ナル政治家カ「ヒットラー」流ノ武力擴張政策ヲ促ス意見ヲ屢々唱ヘタルニ鑑ミ米國々民トシテハ日本カ和平政策ニ立歸リタリト信スルコト困難ナリ  
本使ヨリ要スルニ本日ノ提案ハ甲案ニ於テ「一、三」ノ點ニ於テ何等進捗セズ然ルニ形勢ハ急迫ヲ告クルヲ以テ現在日米間殊ニ南西太平洋ニ於テ緊迫セル情勢ヲ緩和シ幾分ナリトモ友好的ナル空氣ヲ回復センカ爲メ急速妥結ヲ圖リタル上更ニ會談ヲ進捗セシメントスル趣旨ニ出ツルモノナルコトヲ説明シタル處「ハル」ハ御趣旨ハ充分了解スルモ右ニ述ヘタル如キ困難アリト述ヘ更ニ自分モ貴大使等モ日米兩國民ニ對シ且又全人類ニ對シ非常ナル重責ヲ擔ヒ居ルモノナリトテ沈痛ナル面持ヲ示シタルカ特ニ御申出ノ點ニ付テハ充分同情的ニ研究ノ上更ニ御相談スルコトト致シ度シト述ヘタリ

五四、十一月二十日東郷大臣發野村大使宛電報第八一〇號

(交換公文案ノ件)

別電

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ、閣下ニ對シ本月 日日本國政府ト「アメリカ合衆國政府トノ間ニ作成セラレタル取極寫一通ヲ送付スルト共ニ左記ヲ通報スル」ノ光榮ヲ有シ候

本取極ハ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ確保シ以テ世界平和ノ恢復及増進ニ寄與スルノ目的ヲ以テ日米兩國間ニ作成セラレタルモノニ有之候處帝國政府ハ前記目的ニ對シ貴國政府ニ於カレテモ日米兩國政府ト同様重大ナル關心ヲ有セラレタルモノナルコトヲ確信シ、本取極ノ内容特ニ其ノ第一條、第二條、第三條、第四條及第六條ハ挿入サレタル場合ニ限ルニ對シ貴國政府ノ注意ヲ喚起致候此等ノ條項ハ夫々太平洋地域ニ於ケル政治的安定、屬領印度ニ於ケル物資ノ獲得、日米兩國間ノ通商、支那事變及國際通商上ニ於ケル無差別待遇(但シ第六條力挿入サレタル場合ニ限ル)ニ關スル方針ニ關シ相互的ノ了解ヲ明定シタルモノトシテ右ハ貴我兩國間ニ於ケル日米兩國間ニ於ケルト同様兩國間ノ相互的ノ了解トシテ採擇シ適用シ得ヘキモノト思料致候

仍テ帝國政府ハ本取極ノ作成ノ目的ヲ更ニ完全ニ達成セシメンカ爲メ本取極ノ前記條項ニ掲記セラルル了解ヲ貴我兩國間ノ正式ノ了解トシテ採擇シ適用スルノ用意アル旨ヲ茲ニ明カニスルト共ニ貴國政府力ニ同意セラレンコトヲ期ス

待スル次第ニ候  
本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬具

(返翰)

以書翰啓上致候陳者本月 日附貴翰ヲ以テ本月 日貴國政府ト「アメリカ合衆國政府トノ間ニ作成セラレタル相互的ノ了解及政策ニ關スル取極メ寫一通御送付相成ルト共ニ左記御通報相成敬承致候

「本取極ハ………」  
次第二候

本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ、閣下ニ對シ英國政府又ハ蘭國政府カ本取極ノ作成ノ目的ヲ諒解シ且右目的ヲ更ニ完全ニ達成セシメンカ爲メ本取極ノ前記條項ニ掲記セラルル了解ヲ貴我兩國間ノ正式ノ了解トシテ採擇シ適用スルコトニ同意スル旨同答スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ケ敬意ヲ表シ候

敬具

五五、十一月二十三日野村大使發東郷大臣宛電報第一二五九號

(野村、來栖、ハル會談ノ件)

二十一日日本使來栖大使ト共ニ「ハル」國勢長官(パレンタイン)列席ト會談、要領左ノ通り、

長官ハ先ツ二十日英、蘭ノ大公使ト會見(新聞報ニ依レハ約二時間半)我方提案ニ付意見ヲ求メタル處何レモ日

四七三

S. 1.7.3.1-1

2227.



本ニ平和的政策遂行ノ意圖確固タルモノアル次第ナラハ勿論歡迎スル所ニシテ通商關係ノ常態復歸ノ如キ喜ソテ之ニ協力スヘキモ日本カ特派遠派シテ平和的意圖ヲ表明シツツアルニ一方日本政治家ノ言論及新聞論調等ハ全ク之ト反對ノ方向ニ走りオルヤニ見受ケラレ日本ノ真意甚タ不可解ナル點アルコト及凍結令實施ニ至ル迄ノ日本ノ石油輸入量カ急速度ヲ以テ激増ヲ重ネ來リ平和的意圖ニノミ使用セラルルモノニ非スシテ海軍ニ於テ貯有シツツアル等ノ指摘アリ且「エンバーゴ」解除ハ徐々ニ之ヲ行フコト可然等ノ意見アリタルカ關係大公使ハ何レモ本國政府ニ稟請月曜日迄ニ回調ヲ得ルコトナリ居ルヲ以テ其ノ上ニテ更ニ改メテ何分ノ儀回答スヘント述ヘ日本ニ於ケル言論最近ノ傾向ニ關シ多大ノ關心ヲ表明シ日本政府ノ平和的意圖闡明(「バレンタイン」ハ外國新聞記者等ヲ通シタル對外的宣傳ヨリハ寧ろ日本國民ニ對スル政府首腦部ノ誠意海外ニ傳達セラルルコト效果大ナルヘント述フ)カ米側輿論ヲシテ對日妥結ヲ承服セシムル上ニ頗ル重要ナルコトヲ力説シ本來開戦已ムヲ得サル場合ニ於テスラ前日迄平和ヲ攻究スルコトコソ政治家ノ道ナラスヤト迄極言シ大統領及自分カ五回平和政策ヲ闡明スルニ對シセメテ一問ニテモ呼應セラレタキモノナリト述ヘタリ

次ニ當方ヨリ英、澳、蘭等ノ意向ハ兎ニ角トシ米國自身ノ我方提案ニ對スル意向如何ト尋ネタルニ對シ項目ヲ追ツテノ答辭ハ恰モ要求ト認メ避面ヲ呈シ之ヲ避ケタルモ要スルニ米及英、澳等ノ欲スル所ハ南太平洋方面ノ緊迫セル現狀ヲ解消シ同方面ニ抑制セラレオトル勢力ヲ他ニ活用シ得ルコトヲ切望シ「ル次第」ニシテ此ノ點ヨリ見テ我方提案ハ遺憾乍ラ充分トハ認メラレト述ヘ

本使ヨリ北佛印ノ兵力結果カ重慶ノ活路ヲ遮斷スル目的ヲ以テ主トシテ雲南方面ニ向ケラレオトルモノニシテ南太平洋

地域ニ脅威ヲ及ボサントスルモノニアラサルコトヲ指摘シ來稿ヨリ我方案ノ受諾カ自然米始メ各國ノ希望スルカ如キ事態ヲ馴致スヘキ端緒トナルヘキヲ述ヘタルニ對シ各國ノ欲スル所ハ局面ノ急速ナル轉換ニ存スル旨ヲ應酬セリ又通商常態復歸ニ關シテモ先ツ差當リ漸進ヲ可トスヘキモ右ハ日本ノ平和的意圖闡明トナルニ至ラハ數日ニシテ急轉回ヲ見ルニ至ルヘント述ヘ援將行爲打切りノ點ニ關シテハ米國ノ橋渡シヲ爲スヘキ場合ヲモ考慮シ豫メ日本ニ對シ斯ノ如キ約束ヲ爲スニ於テハ公平ナル紹介者タルヲ得サルコトトナルヘク又交渉開始ト共ニ之ヲ打切ルコトトセハ斯約束ヲ爲スモ其ノ價值少カルヘクトノ遺所謂蔣介石援助カ宣傳セラルル程大シタモノニアラサルニ鑑ミ右條項ノ挿入ハ先ツ當面ノ問題ノ解決ニ依リ急迫セル事態ヲ改善シ更ニ進ンテ根本的解決ニ達セントスル日本側提案ノ御趣旨ニモ鑑ミ承服シ難シト答ヘタリ

尙大統領ノ橋渡シハ今日ハ時機未ク熟スルニ至ラサル旨ヲ答アリタリ何レ月曜日米側ヨリ何等對策提示アルコトト信スルモ之ト共ニ恐ラク太平洋ノ平和維持及通商促進ヲ目標トセル何等カノ提案ニ我方ノ參加ヲ求メ來ルヘキヤニ認メラレタルヲ以テ不敢本使ヨリ目下ノ懸案ハ特ニ先ツ之ヲ日米間ノ協定トシ他國ヲシテ之ニ參加セシムルノ形式ヲ取ルノ要アルヘシ、來稿ヨリ右何等カ集團機構的ノモノヲラシメ多數決ニ依リ我方ヲ「Vote down」セントスルカ如キ仕組トナルニ於テハ我方ハ到底之ニ應諾セサルヘント述ヘオキタリ

五六、十一月二十三日野村大使發東郷大臣宛電報第一一六〇號

(來栖大使會談補遺ノ件)

往電第一一五九號ニ關シ  
來栖ヨリ

二十二日ノ會談ニ付打合ノ爲メ二十一日日本使「ハル」長官ト約三十分ニ互リ私的會談ヲ遂ケタルカ長官ハ三國條約ノ問題ニ關シ本使カ十八日會談ノ際同條約ヲ Outline スルカ如キ重要ナル協定云々ト述ヘタル點「ハル」モ頗ル妙案ト思考スル次第ナルカ「ハ」ハ日米兩國カ太平洋平和維持ノ爲ニ協力シ以テ世界平和建設ニ貢獻スルハ其ノ衷心ヨリ念願トスル所ニシテ普テ倫敦經濟會議ノ際石井子爵、深井英五氏等ノ日本代表ト肩ヲ並ヘテ通商自由ノ爲メ戰ヒタルハ今猶欣快ナル記憶トシテ保有シツツアル次第ナリ「ハ」ハ本來自日本カ東亞ノ指導國タルコトモ極メテ當然ト思考シホリ又表現聊カキコチナキ點ハ別トシ所謂大東亞共榮圈ノ理念モ亦理解ニ答ナラス日本カ武力ニ依ル他國制壓ヲ以テ之ヲ達成セントスルモノニ非サル限リ米國トシテハ何等之ヲ妨害セントスルモノニ非ス自分トシテハ日露戰爭直後日米兩國カ一方ハ東亞ニ於テ他方ハ西半球ニ於テ夫々指導的地位ヲ保持シツツ親善協力ノ關係ニ在リタルカ如キ時代ノ再現ヲ欲シテ已マサル次第ナリト述ヘ今日兩國カ右様ノ心構ヘヲ以テ太平洋平和ヲ協定スルト同時ニ日本ハ三國條約カ右協定ノ實施ヲ妨害スルモノニ非サルコトヲ闡明セラルルモノ亦一ノ行方ニアラスヤト信スト述ヘ居リタリ  
事應切迫乙案ニ對スル米側ノ諸否如何ニ依リ交渉ノ決裂已ムヲ得スト迄セラレツツアル今日ニ及ヒ右様構想ノ檢討ハ

或ハ迂遠ニ先スヘキモノ何ノ道實頭往電豫想ノ通り月曜日(二十四日)「ハル」ヨリ太平洋協定ニ關シ何等カ申出來ル場合モ有之ヘキニ付或ハ此ノ際打開策トシテ右御利用ノ御考ヘ等モアラハ至急何分ノ儀御同電アリタシ

五七、十一月二十三日野村大使發東郷大臣宛電報第一一六一號

(野村大使會談補遺ノ件)

往電第一一六〇號ニ關シ

二十二日夜ノ話ハ要スルニ日本カ平和政策ニ出ツル以上日米貿易ヲ漸次恢復スヘシ關係國ヲシテ協力セシムル點ハ昨日其ノ代表者ト充分ナル協議ヲ爲シタルカ月曜日迄ニ彼等ハ本國ト打合ヲ爲シタル上更ニ協議スル次第ニテ國務長官ハ自分ノ力ニモ限リアリ夫レ以上ノコトハ不可能ナル旨申シタリ東京ノ督促念ナル理由ヲ認メツツアルモ又數日待ツレヌ理由ナシト信スルカ如シ病床ニ在リシ胡適モ昨日協議ノ終末ニ走セタル由ナリ  
長官ニ於テハ今直ニ日支橋渡シヲ爲ス意向ナク又援將打切りハ困難ト爲シツツアリ但今日ト雖モ援將ノ程度ハ大シクモノニアラス平和政策ノ進展次第右ノ件々ハ發展ヲ見得ルカ如キ態度ニシテ只今ノ所支那問題ヲ後廻ハシニ取扱ハントシツツアルモ他方面ノ確實ナル情報ニ依レハ所要期間ノ駐兵ハ要スルニ無期限駐兵ニシテ四、五年ヲ一期トシテ更ニ其ノ後ノ情勢ニ依ルコトトスルナラハ別段異議ノ理由ナカランモ無期限ニテハ非併合及主權尊重ノ主義ニ背馳スルモノト見アルカ如シ(七月豫備交渉進行中佛印進駐ヲ見當時會談中絶シタルヲ遺憾トスル旨繰返ヘシ今度モ夫レト類似ノコトナキコトヲ間接ニ警告シツツアリ)

南部佛印ヨリ北部へ移駐ニテハ南西太平洋ノ形勢緩和ニ效ナク關係諸國ハ皆之ニ牽制セラレ兵力カ凍結セララルコト  
 今日ト餘リ異ラサル様云々スルヲ以テ自分ノ軍事眼ヲ以テスレハ之レ極メテ大ナル讓歩ニシテ同方面ニ至大ノ貢獻ヲ  
 爲スヘシト説明セル處長官ハ會議ノ内容ハ只自分ノミニ止マリ他ノ何人ニモ干與セシメス(後刻一、二有力ナル上院  
 議員ニ話シタシト申セリ)從ツテ軍事上ノコトハ克ク解ラヌト云フ態度ナリ  
 本使乙案ノ前書ヲ示シ逐條詰否ヲ質サントシタル處長官ハ乙案ヲ以テ對米「デマンド」ト感スルモノノ如ク極メテ不興  
 ニテ要求セラルル理由ナク自分ハ斯ク迄モ努力シツツアルニ拘ラス遮ニ無ニ當方詰否ノ決定ヲノミ迫ララルカ如キ只  
 今ノオ話ニハ失望 (Disappointment) スル旨述ヘタリ  
 本使等ハ沈著ヲ旨トシ折衝ニ當リ激スル様ノコトハ無之先方亦然リ而シテ長官ハ自ら米國ハ平和ノ中道ヲ進ミツツア  
 ル前提ノ下ニ折衝シツツアリテ日本モ亦米ノ和平政策ニ同調センコトヲ希望シツツアリ

五八、十一月二十二日東郷大臣發野村大使宛電報第八二二號

(交渉督促ノ件)

兩大使へ

往電第七三六號ノ期日ハ變更シ難キモノナルコト御承知ノ通りナルカ貴方ニ於テモ折角御努力中ニモアリ又帝國政府  
 トシテモ既定方針ヲ堅持シツツ最後迄情理ヲ盡クシテ局面收拾ニ最善ノ努力ヲ傾ケ以テ能フ限り日米國交ノ破局ヲ阻  
 止シ度キヲ以テ御想像ニ餘ル絶大ナル困難アリタルニモ拘ラス茲三、四日中ニ日米間ノ話合ヲ完了シ二十九日迄ニ調  
 兩大使へ

印ヲ了スルノミナラス公文交換等ニ依リ英蘭兩國ノ確約ヲ取付ケ以テ一切ノ手續完了ヲ見得ルニ於テハ夫レ迄得ツコ  
 トニ取計ラヒタク就テハ右期日ハ此ノ上ノ變更ハ絕對不可能ニシテ其ノ後ノ情勢ハ自働的ニ進展スルノ他ナキニ付キ  
 如上ノ次第篤ト御含ミノ上交渉完結ニ付キ完全ノ御努力相成度シ  
 右殿ニ兩大使限リノ御含ミ迄

五九、十一月二十三日東郷大臣發野村大使宛電報第八一六號

(紹介者ノ件)

米國側ハ乙案第四項ノ日支和平ニ關スル努力ヲ妨礙セザルコトヲ確約スルニ難色アルカ如キ處我方ハ乙案ト同時ニ  
 「ルーズヴェルト」大統領ヲ紹介者トスルニ異存ナキ次第ナルニヨリ其ノ橋渡シニ依リ去ル十一月ノ米側提案(乙號)ノ  
 趣旨ニ基キ支那ヲシテ日本ニ對シ友誼ヲ披瀝セシメ以テ日支和平直接交渉ヲ開始セントスルモノナル處右交渉ノ開始  
 ト共ニ日支間ニ停戰協定成立豫想セララルヲ以テ米國ノ接行爲モ實際上其ノ必要ヲ失フニ至ルヘキモノナリ依テ  
 「ル」大統領ノ行フヘキ右橋渡シノ結果蔣介石ヨリ和平ヲ提議セシメ米國政府ハ之ニ對應シテ日支友好關係確立ヲ希望  
 スル見地ヨリ日支ノ和平ニ關スル努力ヲ支持スヘク之カ支障トナルカ如キ行爲ハ差控フルモノナリトノ趣旨ヲ明カニ  
 スルコトハ當然ノコトト云フヘシ  
 就テハ貴大使ハ米側ヲシテ乙案第四項ヲ受諾セシムル共ニ本交渉妥結ノ場合ニハ右大統領ノ紹介ニ依リ蔣介石ノ和  
 平提議(簡單ナルヲ可トス)ヲ往電第八一二號期日迄ニ實現セシムル様御努力アリ度シ

六〇、十一月二十四日東郷大臣發野村大使宛電報第八二二號

(乙案督促ノ件)

貴電第一五九號及一一六一號ニ關シ

一、米側及英薩蘭諸國ニ於テハ南部佛印撤兵ノミヲ以テハ不満足ナリトナン居ルカ如キ處右ハ當方ニ於テハ局面打開ノ爲メ眞ニ難キヲ忍ヒテ敢テセル提案ニシテ右以上ノ讓歩ハ絕對不可能ナリ

二、當方ノ期待スル所ハ單ニ貴電ノ日米貿易恢復乃至凍結令實施前ノ狀態ヘノ復歸ニ止マラサルコトハ往電第七九八號申進ノ通りニテ乙案包含ノ事項ハ第六及第七項以外全部實現ヲ要スル次第ナリ從ツテ撥行爲停止ハ蘭印物資確保及米國ノ對日石油供給ト共ニ絕對不可缺ノ要件ニシテ右ハ帝國ノ公正妥當ナル要求ナルニ鑑ミ米國政府ニシテ之ヲシテモ認メ難シトスルハ當方ノ甚ダ理解ニ苦シム所ナリ就テハ往電第八一六號ノ趣旨ヲ以テ重ネテ米側ヲ説得相成度

三、我方カ乙案ニ依ル妥結ヲ求ムルニ對シ米側カ「ダイヤモンド」ナリト稱スルハ誤解ニシテ當方ハ事態ノ切迫ニ鑑ミ只管急速妥結ヲ希望スルノミニテ他意ナキコト勿論ノ儀ナルカ此ノ點ヨリ云フモ米側カ英、薩、蘭等ヲ誘ヒ集團的機構ニ導カントスル傾向ハ警戒ヲ要スヘク貴方御應酬ノ通り日米諒解成立ニ伴ヒ爾餘ノ關係國ヲシテ往電第七三三號ノ趣旨ニテ之ニ同調セシムルコト致シ度

六一、十一月二十四日東郷大臣發野村大使宛電報第八二二號

(大臣「グルー」大使會談ノ件)

往電第八二二號ニ關シ

二十三日在京米國大使ノ來訪ヲ求メ實頭往電ノ趣旨ニヨリ説明ヲ加ヘ置キタルカ尙其ノ際南部佛印日本軍隊ノ北部移駐カ軍事的ニモ重要意義ヲ有スルコト、北部佛印進駐ハ元來支那事變處理ト關聯シ行ハレタルモノニシテ南部進駐ト共ニ英米側ハ資產凍結ヲ實施セル經緯ナルコト、而シテ全面的撤兵ハ今日ノ所絕對不可能ナルコトヲ述ヘ又支那問題ニ付米大統領介紹者トシテ蔣介石ヲシテ日本ニ對シテ和平ヲ提議セシメ日本カ之ニ應ジテ交渉ニ入ル際我方ニ於テ米國カ和平ノ努力ヲ妨礙セサルヘキコトヲ要求スルハ當然ノ儀ナルノミナラス右カ解決ノ最善唯一ノ方法ナリ尙此點ヲ明確ニセシメ日米交渉ヲ取纏ムルハ日本ノ國民感情上ヨリモ之レ亦絕對不可能ニシテ米國カ此點ヲ承諾セサルハ理解シ難キ旨ヲ述ヘ我方ノ新提案ハ本大臣トシテハ米國ノ和平政策ニ協調スル見地ヨリ最大ノ盡力ヲ以テ日本側ノ希望條項ヲ減少(リデュース)シ事態ヲ簡明ニセント努メタルモノニテ本交渉成立ノ上ハ右ノ趣旨ニテ日本ノ政策ハ益益之ヲ平和的ニ進メ度キ意圖ナリトノ趣旨ヲ附加シ置キタルカ同大使ハ早速右ヲ本國政府ニ電報スヘントテ辭去セリ

六二、十一月二十五日野村大使發東郷大臣宛電報第一一七八號

(米側回答遲延ノ件)

本日午前先方ノ都合ヲ問合セタル處會議中ニテ午後何分ノ回答スヘントナリシニ付午後更ニ督促セシメタル處「ハル」モ昨日及本日ヲ通シ此ノ問題ニ付協議セルモ未ダ成案ヲ得ルニ至ラス是非共明日ニハ出來上ル見込ニ付明日更

四八一

ニ打合セ度キ旨回答アリ右ハ昨日及本日ニ互リ終日國務省事務當局ノ會議及一時間ニ互ル英國大使ハル會見等ノ事  
實ニ照ラン先方ニ於テモ交渉促進ニ努メ居ル様子ニ付止ムヲ得ズ本日ノ會談ヲ見合セ明朝更ニ打合スコトセリ

六三、十一月二十五日野村大使發東郷大臣宛電報第一一七九號

(米、英、蘭、漢、支打合ノ件)

「ハル」國務長官ハ從來一同ニ互リ英、漢、蘭印、支ノ各大公使ト一應同時ニ協議シ來レル處形勢ノ進展ニ伴ヒ主トシ  
テ英國大使ヲ相手トスルコトナレルモノノ如ク本二十五日午前以來漢蘭印代表ニ對シテ英國大使ヲ通シテ聯絡シ支  
那大使トハ英國大使ト協議後單獨ニ本日夜協議スルコトナリ從來ノ四國同格の取扱ヨリ變化シ來レル點一般ノ注意  
ヲ引キ居レリ

六四、十一月二十六日野村大使發東郷大臣宛電報第一一八〇號

(野村、來栖打聞策具申ノ件)

野村來栖ヨリ

異次往電ヲ通り乙案全部ヲ容認セシムル見込殆ト無ク一方時日ハ切迫此ノ儘ニテハ遺憾ヲ交渉打切りノ外ナク微力  
慚愧ニ堪ヘス此ノ際唯一ノ打開策トシテハ甚タ恐懼ニ堪ヘサルモ先ツ「ル」大統領ヨリ、至尊ニ對シテ奉リ太平洋平和  
維持ヲ目的トスル日米兩國協力ノ希望ヲ電信セシメ(御内意ヲ俟チテ極力交渉ス)之ニ對シ御親電ヲ仰キ奉リ以テ空氣

ヲ一新スルト同時ニ今少シク時機ノ御猶豫ヲ得、英米側カ蘭印保護占領ニ出テ來ル可能性ヲモ考慮シ我方ヨリ先手ヲ  
打チ佛印、蘭印「タイ」國ヲ包含スル中立國設立本年九月「ル」大統領カ佛印、「タイ」國中立法ヲ提議セルハ御承知ノ通  
リナリ)ヲ提議スルコト可然ト思考ス

今回交渉ノ決裂カ必スシモノ日米開戰ヲ意味セサルヤノ觀測存スヘキモ決裂後ハ前述ノ如ク英米側ノ蘭印進駐モ豫想セ  
ラレ結局我方ノ攻撃ニ依ル對英米衝突不可避ナルヘク右ニ對シ獨逸カ條約第三條ノ義務發動ヲ肯スルヤハ頗ル疑問ニ  
シテ且日支事變ノ解決ハ少ナクトモ今次世界戰ノ終局迄持テ越スノ外ナキニ至ルヘシ本電ハ或ハ本使トシテ最後ノ意  
見具申タルヘキニ付少クトモ木戸内大臣迄御示シノ上至急折返シ何分ノ御同電切望ス

六五、十一月二十六日野村大使發東郷大臣宛電報第一一八九號

(野村、來栖「ハル」會談ノ件)

二十六日午後四時四十五分ヨリ約二時間本使及來栖大使「ハル」長官ト會談ス

「ハル」ヨリ茲數日間本月二十日日本側提出ノ暫定協定案(我方乙案)ニ付米國政府ニ於テ各方面ヨリ検討スルト共ニ關  
係諸國ト慎重協議セルモ遺憾ナラ之ニ同意出來ス結局米側六月二十一日案ト日本側九月二十五日案ノ懸隔ヲ調節セル  
左記要領ノ新案ヲ一案(a plan)トシテ tentative and without commitmentト肩書ス)提出スルノ已ムヲ得サルニ  
至レリトテ左ノ二案ヲ提出セル、  
甲、所謂四原則ノ承認ヲ求メタルモノ

- (一) 日米英ノ爾支泰國間ノ相互不可侵條約締結
- (二) 日米英爾支泰國間ノ佛印不可侵並ニ佛印ニ於ケル經濟上ノ均等待遇ニ對スル協定取極
- (三) 支那及全佛印ヨリノ日本軍ノ全面撤兵
- (四) 日米兩國ニ於テ支那ニ於ケル蔣政權以外ノ政權ヲ支持セザル確約
- (五) 支那ニ於ケル治外法權及租界ノ撤廢
- (六) 最惠國待遇ヲ基礎トスル日米間互惠通商條約締結
- (七) 日米相互凍結令解除
- (八) 日米兩國カ第三國トノ間ニ締結セル如何ナル協定モ本件協定及太平洋平和維持ノ目的ニ反スルモノト解セラ
- (九) レサルヘキコトヲ約ス(三國協定骨骸草案)

右ニ對シ我方ヨリ全然從來ヨリノ話合ニ俾リ東京ニ取次クトスラ考慮セザルヲ得ストテ強硬應酬ヲ重ネタルカハ  
米側ニテ斯ル強硬案ヲ提示スルニ至レルハ英爾支ノ策動ニ依ル外接將行爲停止ノ我方要求ト數日來我國要人ノ英米打  
倒演說我對泰國國防全面委任要求說等ニ影響サレ米側ノ妥協派カ強硬派ニ壓倒セラレタル爲カト推察ス

六六、十一月二十六日東郷大臣發野村大使宛電報第八三〇號

兩大使

(交渉督促ノ件)

米國新聞通信ハ我方ノ佛印部隊全面の撤兵ト資産凍結解除トヲ關聯セシメ居ル模様ノ處往電第七九八號申述ノ通り十  
八日貴方ニ於テ提出セラレタル試案ニテハ到底時局ヲ收拾スルニ足ラス我方最後案ノ趣旨ハ乙案全部乙案ヨリ通商  
無差別及三國條約即チ第六及七項ヲ除外シタルモノニ往電第八一六號申述ノ如ク米側十二日提出乙號ノ日支和平周旋  
ヲ含ムノ成立ヲ期待スルモノニテ之カ貫徹ハ絕對ニ必要トスル次第ナリ就テハ期日切迫シ餘日幾許モナキニ鑑ミ貴  
大使ニ於テハ至急重テ米當局ト接觸セラレ右我方主張ノ貫徹ニ最善ノ努力ヲ盡サレ度ク尙申ス迄モナキ儀ヲ貴大  
使御腕懇ノ有力米人等ヲモ充分御利用相成リ直接間接ニ米側ヲ説得アリ度シ

六七、十二月二十六日東郷大臣發野村大使宛電報第八三三號

(石油需要量等ノ件)

我方新提案ニヨリ妥結ノ際ハ第二項及第三項ニ關聯シ早速物資確保ノ必要アル處帝國カ焦眉ノ急トスルハ石油獲得ナ  
ルニ依リ交渉進捗ニ應シ取極調印前早目ニ我方ニ於テハ石油輸入ニ付米國ヨリハ年四百萬噸(米國ヨリノ昭和十三  
四、五年度ノ平均輸入量ニシテ其ノ内譯ハ航空揮發油ヲ含ミ資産凍結實施前ノ實績ニ準ス)即チ月約三十三萬三千噸  
又關印ヨリハ從前交渉ニ於テ大體意見ヲ纏リタル數量(關側ハ年百八十萬噸ノ供給ニ同意セリ)ヲ基礎トシ年二百萬噸

四八五

ヲ希望スル旨御申入レ相成度ク話合成立ノ上ハ貴大使ト國務長官トノ間ノ文書交換等ノ方法ニ依リ右ヲ確約セシムル  
コトト致シ度シ  
尙右數量ハ交渉上標準タルヘキ大約ノ數字ヲ表ハスモノナルカ他方當方トシテハ今後通商恢復ニ伴ヒ右數量ノ漸次増  
加ヲ希望スル次第ニ付右御含ミノ上御折衝相成度シ

四八六

269

六八、昭和十六年十一月二十七日野村大使發東郷大臣宛電報  
第二一九〇號

(交渉打切ノ場合ニ關スル件)

今次日米交渉ノ經過ハ果大電報ニ依リ御承知ノ通りニシテ本二十六日米側提案(別電第二八九號)ニ徴スルモ彼我ノ  
主張懸隔著シク御審示ノ期日内ニ當方主張ヲ受諾スルコトハ遺憾作ラ到底見込ナキニ至レル次第ナリ  
然ルニ米側ニ於テハ豫テノ主張竝ニ我方ヨリ本件關係各國ノ同意取付ヲ求メタル關係上尙ホ諸國ト協議ノ上右提案ヲ  
爲スニ至リタル次第ナルカ其ノ企圖スル所ハ案ヨリ油斷ヲ許ササルモ我方ニ於テハ御訓令ノ次第モアリ今日迄先方ニ  
對シ急遽妥結ヲ迫リタルノミニテ其ノ爲未ダ最後通牒的意思表示ヲ爲シタルコトナク又十七日大統領モ Roosevelt  
官ト云ヘルカ如キ事態ニモ鑑ミ若シ我方ニ於テ現下ノ交渉ニ何トカ區切ヲ付ケスシテ期日後ニ於テ何等自由行動ニ  
出ツル場合ニハ米側ハ目下關係諸國ト接衝中ナル事實モ利用シ反ツテ我方カ所期ノ行動準備ノ爲メ本件會談ヲ引キス  
リ之カ用(意)成リタルヲ以テ會談繼續中ニモ拘ラス勝手ニ豫定ノ行動ヲ開始シタルモノノ如ク宣傳シ交渉破綻ノ責任  
ヲ我方ニ轉嫁セントスルノ惧アルコト現ニ再三我佛印進駐ノ爲メ會談停止サレタル旨ヲ言及セル事例ニ依リテモ觀取

セラルルヲ以テ我方カ何等本件交渉打切ノ意思表示ヲ爲サスシテ突如自由行動ニ出ツルコトハ右ノ如キ逆宣傳ニ利用  
セラルル惧アルノミナラス大國トシテノ信義上ヨリモ考慮ヲ要スル次第ナルカ而モ斯ノ如キ意思表示ハ我軍機ト緊密  
ノ關係アルヘキヲ以テ政府ノ御裁量ニ依リ東京ニ於テ米國大使ニ對スル通告又ハ中外ニ對スル聲明等然ルヘキ方法ニ  
依リ今次交渉ノ區切りヲ明カニセラルルコト得策ナルヤニ存セラルル尤モ其ノ場合ニハ豫メ當方ヘ御内報ノ上同時ニ申  
入ルコトト致シ度シ  
尙大統領ト會見ノ都合モアルニ付此ノ際尙ホ心得ヘキ點モアラハ折返ヘシ御回示ヲ請フ

六九、十一月二十七日野村大使發東郷大臣宛電報第二一九一號

(野村、來栖「ハル」會見詳報ノ件)

二十六日「ハル」長官ノ求メニ依リ本使來栖大使ト共ニ會見シタル處先方ハ先ツ別電第二一九二號、第二一九三號及第  
一九四號ノ文書ヲ手交セルヲ以テ一讀ノ上種々質問應答ヲ重ネタルカ其ノ要領左ノ通り  
一、二十日當方提出ノ提案(乙案但シバ及七ヲ除ク)ニ付テハ五日間ニ互リ審議研究シ且關係諸國トモ協議セルモ遺憾  
作ラ之ニ付審議スルヲ得サルニ至レリ  
二、當方ヨリ「オーラル」中六月二十一日米案ト九月二十五日日本案トノ懸隔調和ヲ云々セラレ居ルモ本案ハ右何レノ  
案トモ著シク異リ「オーラル」指摘セルニ對シ「ハル」ハ右ハ當方指摘ノ「パラグラフ」ノ直前ノ「パラグラフ」ト併讀アリ  
タク當方トシテハ前記日米兩案調節ノ一案ナリト述ヘ何分會談開始以來其ノ内容ヲ秘シ來レル爲メ民論ヲ重ンスヘ

四八七

6 1.1.3.1-1

2234

キ當國ニ於テ種々ノ憶測ヲ生シ殊ニ支那ヲ見殺シニスルカ如キ浮説モ頻リニ傳ヘラレ自分モ當惑シオル一方日本側ハ二十二日會談ノ際申上ケオキタル次第ニモ拘ラス各要人ハ相變ラス非平和的議論ヲ高調セラレオル關係モ有之自分トシテハ諸般ノ事情上本案提示ノ已ムヲ得サルニ至レル次第ナリト述ヘタリ

三、先方提案「セクシヨ」ニ付テハ先ツ四原則中第四カ從來ノ所謂「ステイトソフドクトリン」ト變化セルヲ指摘セルニ對シテ別段返答ナク無差別待遇主義ニ對シテハ從來ノ我方主張ヲ「レインド」スルト共ニ例ヘハ右原則ヲ直ニ支那ニ適用シ現在經濟ノ運營ニ急激苛酷ナル變革ヲ加フルノ不合理不可能ヲ指摘セルニ對シテハ右ノ如キハ十分理解シオリ原則ハ原則トシテ必スモ急遽實現ヲ豫想シオル次第ニアラスト答ヘタリ

四、同提案「セクシヨ」第二ノ「ニ」ニ關シ共ノ趣旨ハ兎ニ角トシ日本カ華府會議以來此ノ種集團的機構ニ付テハ頗ル苦キ經驗ヲ有シ居リ本案カ九國條約的機構ヲ復活セントスルモノナルニ於テハ我國トシテハ四年間ノ今次事變カ全ク無益ニ歸スルコトナル次第ニシテ到底容認シ得サル所以ヲ強調セルニ對シテハ何等力アル反駁ヲ爲サス

五、更ニ同「セクシヨ」三及四ニ至リテハ全ク出來ナイ相談ニシテ四ノ重慶政府承認ノ如キ米國カ恰モ支那即チ蔣政權ヲ見殺シニスルヲ得スト稱セラルルカ如ク我國トシテハ斷シテ南京政府ヲ見殺シニスルヲ得ストキツハリ云ヒ切リタルニ對シ「ハ」ハ三ノ撤兵ハ要スルニ交渉ニ依ル次第ニシテ必スシモ即時實現ヲ主張シオル次第ニアラス南京政府ニ關シテハ米國ノ有スル情報ニ依レハ到底支那ヲ統治スルノ能力ナシト見ルノ外ナシト述ヘタルヲ以テ右ハ過去ニ於テ支那ニ幾多ノ政府カ興亡セル經驗ヲ無視セラレタル議論ナリト應酬シオキタリ

六、三國條約ノ問題ニ至リテハ米國ハ日本ヲシテ出來得ル限りノ讓歩ヲ爲サシムコトヲ希望セラレツツアル一方前

述ノ如キ支那問題ニ對シテハ殆ト當方ヲシテ重慶ニ謝罪セヨト稱セラルルニ等シク苟クモ米國大統領力過般「紹介」ヲ云々セラレタルハマサカ右ノ如キ趣旨ニ出テラレタル次第ニハアラサルヘシト述ヘタルニ對シ「ハ」ハ別段答フル所ナシ

七、兎ニ角單ニ「讀シタル」ノミニテモ甚ク承服シ難キ御提案ニテ殊ニ支那問題ニ關シ絕對受諾不可能ナル條項ヲ含ミオルニ鑑ミ此ノ儘之ヲ帝國政府ニ傳達スルハ誠意日米兩國ノ妥結ヲ企圖トスル本使等トシテ採ルヘキ措置ナリヤ否ヤニモ深キ疑問アリ何レ兩人ニ於テ更ニ熱議ヲ上決定スルコトト致シ度シト述ヘオキタリ

八、最後ニ本使ヨリ米國トシテハ本案ノ外考慮ノ餘地ナシトセラルル意ナリヤ及過般大統領カ友人間ニ「ハ」最後ノ言葉ナシト稱セラレタル経緯ニモ鑑ミ會見方ヲ取計フヲ得ヘキヤト質シタルニ對シ前者ニ對シテハ右ハ要スルニ一案ナリト答ヘ後者ニ對シテハ餘リ進マサル様子ナリシモ取計ヒ方承諾セリ

七〇、十一月二十六日米側提案 (十一月二十七日來電第一九二號、第一九三號)

合衆國及日本國間協定ノ基礎概略

第一項政策ニ關スル相互宣言案

合衆國政府及日本國政府ハ共ニ太平洋ノ平和ヲ欲シ其ノ國策ハ太平洋地域全般ニ互ル永續的且廣汎ナル平和ヲ目的トシ、兩國ハ右地域ニ於テ何等領土的企圖ヲ有セス、他國ヲ脅威シ又ハ隣接國ニ對シ侵略的ニ武力ヲ行使スルノ意圖ナク又其ノ國策ニ於テハ相互間及一切ノ他國政府トノ間ノ關係ノ基礎タル左記根本諸原則ヲ積極的ニ支持シ且之ヲ實際



的ニ適用スヘキ旨闡明ス

(一) 一切ノ國家ノ領土保全及主權ノ不可侵原則  
 他ノ諸國ノ國內問題ニ對スル不干與ノ原則  
 通商上ノ機會及待遇ノ平等ヲ含ム平等原則

(二) 紛爭ノ防止及平和的解決並ニ平和的方法及手續ニ依ル國際情勢改善ノ爲メ國際協力及國際調停遵據ノ原則  
 日本國政府及合衆國政府ハ慢性的政治不安定ノ根柢、頻繁ナル經濟的崩壞ノ防止及平和ノ基礎設定ノ爲メ相互間並ニ他國家及他國民トノ間ノ經濟關係ニ於テ左記諸原則ヲ積極的ニ支持シ且實際的ニ適用スヘキコトニ合意セリ

(三) 國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則  
 國際的經濟協力及過度ノ通商制限ニ現ハレタル極端ナル國家主義撤廢ノ原則  
 一切ノ國家ニ依ル無差別的ナル原料物資獲得ノ原則  
 國際的的商品協定ノ運用ニ關シ消費國家及民衆ノ利益ノ充分ナル保護ノ原則

(四) 一切ノ國家ノ主要企業及運轉的發展ニ資シ且一切ノ國家ノ福祉ニ合致スル貿易手續ニ依ル支拂ヲ許容セシムルカ  
 如キ國際金融機構及取極樹立ノ原則

第二項 合衆國政府及日本國政府ノ採ルヘキ措置、  
 合衆國政府及日本國政府ハ左ノ如キ措置ヲ採ルコトヲ提案ス

一、合衆國政府及日本國政府ハ英帝國支那日本國及蘭蘇聯邦泰國及合衆國間多邊的不可侵條約ノ締結ニ努ムヘシ

二、當國政府ハ米、英、支、日、蘭及泰政府間ニ各國政府カ佛領印度支那ノ領土主權ヲ尊重シ且印度支那ノ領土保全ニ對スル脅威發生スルカ如キ場合斯ル脅威ニ對處スルニ必要且適當ナリト看做サルヘキ措置ヲ講スルノ目的ヲ以テ即時協議スル旨誓約スヘキ協定ノ締結ニ努ムヘシ

斯ル協定ハ又協定締約國タル各國政府カ印度支那トノ貿易若ハ經濟關係ニ於テ特惠的待遇ヲ求メ又ハ之ヲ受ケサルヘク且各締約國ノ爲メ佛領印度支那トノ貿易及通商ニ於ケル平等待遇ヲ確保スルカ爲メ盡力スヘキ旨規定スヘキモノトス

三、日本國政府ハ支那及印度支那ヨリ一切ノ陸、海、空軍兵力及警察力ヲ撤收スヘシ

四、合衆國政府及日本國政府ハ臨時ニ首都ヲ重慶ニ置ケル中華民國國民政府以外ノ支那ニ於ケル如何ナル政府若クハ政權ヲモ軍事的、政治的、經濟的ニ支持セサルヘシ

五、兩國政府ハ外國租界及居留地内及之ニ關聯セル諸權益並ニ一九〇一年ノ團匪事件議定書ニ依ル諸權利ヲモ含ム支那ニ在ル一切ノ治外法權ヲ拋棄スヘシ

兩國政府ハ外國租界及居留地ニ於ケル諸權利並ニ一九〇一年ノ團匪事件議定書ニ依ル諸權利ヲ含ム支那ニ於ケル治外法權拋棄方ニ付英國政府及其他ノ諸政府ノ同意ヲ取付クヘク努力スヘシ

六、合衆國政府及日本國政府ハ互惠的最惠國待遇及通商障壁ヲ低減並ニ生絲ヲ自由品目トシテ据置カントスル米側企圖ニ基キ合衆國及日本國間ニ通商協定締結ノ爲メ協議ヲ開始スヘシ

七、合衆國政府及日本國政府ハ夫々合衆國ニ在ル日本資金及日本國ニアル米國資金ニ對スル凍結措置ヲ撤廢スヘシ

八、兩國政府ハ圓非爲勢ノ安定ニ關スル案ニ付協定シ右目的ノ爲メ適當ナル資金ノ割當ハ半額ヲ日本國ヨリ半額ヲ合衆國ヨリ供與セラルヘキコトニ同意スヘシ

九、兩國政府ハ其ノ何レカノ一方カ第三國ト締結シタル如何ナル協定モ同國ニ依リ本協定ノ根本目的即チ太平洋地域全般ノ平和確立及保持ニ矛盾ルカ如ク解釋セラレサルヘキコトヲ同意スヘシ

一〇、兩國政府ハ他國政府ヲシテ本協定ニ規定セル基本的ナル政治的經濟的原則ヲ遵守シ且之ヲ實際的ニ適用セシムル爲メ其ノ勢力ヲ行使スヘシ

七一、十一月二十六日米側對案

Strictly Confidential

Tentative and Without Commitment

November 26, 1941.

Outline of proposed basis for agreement between the United States and Japan.

Section I.

Draft Mutual Declaration of Policy.

The Government of the United States and the Government of Japan both being solicitous for the peace of the Pacific affirm that their national policies are directed toward lasting and extensive peace throughout the Pacific area, that they have no territorial design in that area, that they

have no intention of threatening other countries or of using military force aggressively against any neighboring nation, and that, accordingly, in their national policies they will actively support and give practical application to the following fundamental principles upon which their relations with each other and with all other governments are based:

- (1) The principle of inviolability of territorial integrity and sovereignty of each and all nations.
- (2) The principle of non-interference in the internal affairs of other countries.
- (3) The principle of equality, including equality of commercial opportunity and treatment.
- (4) The principle of reliance upon international cooperation and conciliation for the prevention and pacific settlement of controversies and for improvement of international conditions by peaceful methods and processes.

The Government of Japan and the Government of the United States have agreed that toward eliminating chronic political instability, preventing recurrent economic collapse, and providing a basis for peace, they will actively support and practically apply the following principles in their economic relations with each other and with other nations and peoples:

- (1) The principle of non-discrimination in international commercial relations.

(2) The principle of international economic cooperation and abolition of extreme nationalism as expressed in excessive trade restrictions.

(3) The principle of non-discriminatory access by all nations to raw material supplies.

(4) The principle of full protection of the interests of consuming countries and populations as regards the operation of international commodity agreements.

(5) The principle of establishment of such institutions and arrangements of international finance as may lend aid to the essential enterprises and the continuous development of all countries and may permit payments through processes of trade consonant with the welfare of all countries.

Section 2.

*Steps to be Taken by the Government of the United States*

*and by the Government of Japan.*

The Government of the United States and the Government of Japan propose to take steps as follows:

1. The Government of the United States and the Government of Japan will endeavor to conclude a multilateral non-aggression pact among the British Empire, China, Japan, the Netherlands, the Soviet Union, Thailand and the United States.

2. Both Governments will endeavor to conclude among the American, British, Chinese, Japanese, the Netherlands' and Thai Governments an

agreement whereunder each of the Governments would pledge itself to respect the territorial integrity of French Indo-China and, in the event that there should develop a threat to the territorial integrity of Indo-China, to enter into immediate consultation with a view to taking such measures as may be deemed necessary and advisable to meet the threat in question.

Such agreement would provide also that each of the Governments party to the agreement would not seek or accept preferential treatment in its trade or economic relations with Indo-China and would use its influence to obtain for each of the signatories equality of treatment in trade and commerce with French Indo-China.

3. The Government of Japan will withdraw all military, naval, air and police forces from China and from Indo-China.

4. The Government of the United States and the Government of Japan will not support—militarily, politically, economically—any Government or regime in China other than the National Government of the Republic of China with capital temporarily at Chungking.

5. Both Governments will give up all extraterritorial rights in China, including rights and interests in and with regard to international settlements and concessions, and rights under the Boxer Protocol of 1901.

Both Governments will endeavor to obtain the agreement of the British and other Governments to give up extraterritorial rights in China, including rights in international settlements and in concessions and under the

Boxer Protocol of 1901.

- 6. The Government of the United States and the Government of Japan will enter into negotiations for the conclusion between the United States and Japan of a trade agreement, based upon reciprocal most-favored-nation treatment and reduction of trade barriers by both countries, including an undertaking by the United States to bind raw silk on the free list.
- 7. The Government of the United States and the Government of Japan will, respectively, remove the freezing restrictions on Japanese funds in the United States and on American funds in Japan.
- 8. Both Governments will agree upon a plan for the stabilization of the dollar-yen rate, with the allocation of funds adequate for this purpose half to be supplied by Japan and half by the United States.
- 9. Both Governments will agree that no agreement which either has concluded with any third powers shall be interpreted by it in such a way as to conflict with the fundamental purpose of this agreement, the establishment and preservation of peace throughout the Pacific area.
- 10. Both Governments will use their influence to cause other Governments to adhere to and to give practical application to the basic political and economic principles set forth in this agreement.

七十二、十一月二十六日米側「オーラル・ステートメント」

口頭

嚴秘

合衆國政府及日本國政府代表ハ過去數ヶ月ニ互リ諸國間ノ平和、法及秩序並ニ公正ナル處理ノ諸原則ニ基キ太平洋全地域ニ關スル諸問題ニ付出來得レハ解決ニ到達センカ爲メ非公式豫備的會談ヲ繼續シ來レリ、之等諸原則ハ一切ノ國家ノ領土保全及主權不可侵ノ原則、他國ノ國內問題ニ對スル不干與ノ原則、通商上ノ機會及待遇ノ平等ヲ含ム平等原則、紛争ノ防止及平和的解決並ニ平和的方法及手續ニ依ル國際情勢改善ノ爲メ國際協力及國際調停達據ノ原則ヲ含ムモノトス

右討議ニ於テ太平洋全地域ニ互ル平和的解決ノ基礎タルヘキ一般の諸原則ニ關シテハ若干ノ進展ヲ見タルモノト信セラル、最近日本國大使ハ日本國政府ニ於テ太平洋地域ニ於ケル包括的且平和的解決ヲ目的トスル會談ノ繼續ヲ希望スル旨及ヒ若シ太平洋平和的解決ヲ目的トスル會談繼續中有效ナルヘキ暫定的取極力合意セラルルニ於テハ同會談ノ妥結ニ好都合ナル雰囲気ノ醸成ヲ助長スヘキ旨陳述セラレタリ

十一月二十日日本國大使ハ國務長官ニ對シ日本國政府及合衆國政府ニ依リ夫々探擇セラルヘキ暫定措置ニ關スル提案ヲ通告セラレタル處右措置ハ前記諸目的達成ヲ企圖セラレタルモノト了解セララル

合衆國政府ハ太平洋地域ニ於ケル平和及安定ノ促進及維持ニ寄與シ且太平洋地域全般ノ平和ニ關スル廣汎ナル「プログラム」立案ヲ目的トスル日本國政府トノ會談ヲ繼續スル爲メ凡有ル機會ヲ供與センコトヲ最モ眞摯ニ希望シ居ルモノナリ

十一月二十日日本國大使ニ依リ提出セラレタル提案ハ本政府ノ見解ニ依レハ目下考慮セラレ居ル一般の解決ノ一部ヲ